

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105029		
法人名	株式会社 プリマ		
事業所名	グループホーム プリマホーム		
所在地	岡山市北区辰巳33-113		
自己評価作成日	平成23年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成24年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりがご自分の家だと思っただき、利用者と職員が楽しんで生活できる場をつくり、「生きる喜び」「生きる意欲」がしぼまない笑顔あふれるホームづくりをめざしています。プリマホームの理念である“暮らす人”“働く人”“集う人”でともに作る場を日々大切に心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

付近に飲食店や商業施設が立ち並び、広い庭のある明るく落ち着いた平屋の建物は住宅地の中に溶け込んでいます。地元出身の代表者は町内の役員を引き受けておられ、地域との交流も盛んで、家族の面会が多く、熱意が感じられます。医療との連携が取れており、往診をはじめ、緊急時の対応も可能で、看護師とは24時間相談でき、5・6人の看取りを経験しています。正規職員化や産休・育休、子供の病気などへ細かい配慮が行き届き、研修も盛んで知識や技術の習得を目指しており、働きやすく、利用者へのよりよいケアにつながり、笑顔をつくりだしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に数回理念の確認を行い、職員全員が同じ思いでサービスを提供できるよう話し合っている。	全員がプリマ(主役)となり、生きる喜び、生きる意欲がしぼまない笑顔あふれる事業所を目指して、スタッフ全員で取り組んでいます。	地域密着型サービスとしての意義をふまえ、理念を具体化して年度ごとの目標を定め、共有と実践に向けて取り組んでいかれることを期待しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校行事へ出かけたり、町内会の行事には積極的に参加している。	小学校の音楽会・運動会では特別席に招待、中学校のチャレンジワークの受け入れ、鼓笛バンドの来演、祭りにはだんじりに通ってもらいお菓子を渡したり、庭でのバーベキューには町内からの参加もあり、出入りのパン屋・八百屋とも交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の体験学習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で出た課題の結果を報告したり、事業所内での問題点を検討し意見や提案をサービス向上につなげている。	家族・町内会長・市職員・地域包括・小学校教頭・警察など多彩な顔ぶれで開催しており、状況を報告し、災害や徘徊などタイムリーな議題を取り上げ、意見や提案をサービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	意見や問題点があれば、その都度電話やFAXなどで連絡をとっている。定期的に報告している。	定期的な報告をはじめ、運営推進会議への出席、疑問や問題点などを問い合わせ、資料を送ってもらい、協力関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに勉強会を実施し、問題意識を高め注意を促すようにしている。	毎月のプリマ会議で話題を取り上げたり、定期的な勉強会を開いて確認しています(今月の運営推進会議でも話し合う予定)。言葉掛けや態度に注意し、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で普段から声を掛け合い、定期的なアセスメントを行う事で意識を高めたり、事業所内で勉強会を開催し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されたい方や活用されている方がいらっしやるので、定期的に勉強会を開催し、職員全員が知識や理解を深め意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明することを心がけ、同意書が必要な時は作成し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けたり、家族や利用者からの意見や要望があれば随時話し合い、サービスの質の向上につなげている。	毎月の便りで日頃の様子を伝え、面会時や電話などでコミュニケーションをとりながら意見や要望を聞き、それらを運営に反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案があれば出来る限り実践できるようアドバイスをしている。また、個人面談を行い、一人ひとりの思いを聞く機会を設けている。	個人面談が実施されており、話しやすい雰囲気があります。代表者は毎朝の朝礼に参加しており、スタッフも主役と考え、意見や提案に対してすばやく対応しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や現場に出て状況を把握し、各自話し合う機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加を促し、会議のときなど発表し皆で勉強できるようにしている。また事業所内においてさまざまな研修会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設での事例を検討したり、研修会に参加した際には同業者と交流し意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では必ず本人と話し、不安や要望を聞き、コミュニケーションをしっかりとるように努め、少しでも安心していただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに随時連絡を取り、面会の際には必ず声をかけ信頼関係を深めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望や思いを確認し、ケアマネや関係機関からの情報をもとに適切な介護サービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行うなど同じ作業を行うことで「共に暮らす」関係づくりに努めている。また、本人の思いを知り、穏やかな生活ができるよう環境づくりや声かけを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子を電話や面会時に報告し、問題があれば相談し、共に協力しながら、解決できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人へ手紙を書いたり、昔から利用している美容院へ行くなど、家族の協力を得ながら馴染みの関係を継続できるよう支援している。	家族や友人への手紙や年賀状、面会、行きつけの美容院の利用、買物、家族が同行しての外出など馴染みの関係継続に努めています。地域との交流も盛んで顔馴染みも増えているようです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	随時状況を把握し、レクリエーションや会話などの時間には職員も輪になって、利用者同士のコミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員が電話や手紙で現状を尋ねたり、機会を設け訪問に行くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で利用者が発する言葉や表情などから、希望や意向の把握に努めている。	暮らしの情報シートや記録の活用、面会時の家族からの聞き取り、日々の関わりの中でコミュニケーションをとりながら、思いや意向を引き出し、本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や暮らしの情報シートを活用したり、利用者や家族から会話を通してこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、行動や動作から全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、または必要に応じてモニタリングやカンファレンスを開催している。	定期的にあるいは必要時にモニタリングを行い、本人・家族からの意見や要望、スタッフの観察や気づき、記録などを参考にカンファレンスを行い、現状に即した介護計画作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、一日の出来事や本人の発した言葉を記入している。また、プランチェック表を作成し、それを元に介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時状況に応じて必要な支援ができるよう、本人・家族やケアマネと話し合ったり、地域のサービス事業者にも相談するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容やボランティアの方々に演奏会を開催していただいたり、買物では近くのスーパーや薬局を利用しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医と連携をとり往診や受診ができるよう支援している。主治医は利用者・家族の希望を大切にしている。また受診の際には手紙や電話等で様子を伝えている。必要な時は付き添いも行っている。	近くの医院から週2回訪問診療を受けています。従来のかかりつけ医への受診は家族が対応されています(手紙や電話等で情報提供)。緊急時にも対応が可能で、安心につながっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で電話相談を受けて下さる。助言を受けたり必要なときは事業所まで来られるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、細やかな情報を医療機関へ提供したり、入院中・退院時には直接担当医や看護師より情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内でできることを明確にした上で、家族や主治医と話し合い、随時意思確認をしている。また、職員は定期的な研修や外部研修を受けている。	開所以来の利用者もおられ、重度化が進んできています。過去5・6人の看取りを経験しており、スタッフは研修を受け、資質向上に努めています。家族・主治医・関係者で随時話し合い、意向を確認しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が事業所内外の研修を受けている。また、事例検討なども行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、年2回利用者を含めた避難訓練を行なっている。また、運営推進会議で地域の協力が得られるよう呼び掛けている。	運営推進会議で協力を呼びかけ、隣近所にも声をかけています。昨年の台風で停電し大変困った経験から、非常食・水・カセットコンロ・オムツ・薬・18名の名札など皆で必需品を話し合っておいています。町内会でも毛布の備蓄を増やしてくれたとのことです。	被災の実体験で備えることの大切さを気付かされたようですが、いつ何時襲ってくるかわからない様々な災害に、冷静に対応できるよう地域を巻きこんでの災害対策に取り組んでいかれるよう願っています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮したさりげない言葉や対応に努めている。また、定期的に研修を行なっている。	希望や好みを取り入れ、見守り・待つ姿勢で、日頃から本人が選択できるような場面設定しています。プライバシーに配慮し、さりげない言葉掛けや筆談など心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせた声かけや筆談などを行い、本人が選択できる場面づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一日の生活リズムを理解し、一人ひとり希望に沿った支援ができるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服を本人自ら選んだり、職員と一緒に決めたりして着たい服を着用できるよう支援している。髪染めなど希望される利用者には随時対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつメニューは利用者と職員が決めたり、準備や片付けなどは一人ひとりの状態に合わせて、達成感が得られるよう職員と一緒にしている。	メニューに希望や好みを取り入れ、3度3度手作りし、味付けや配膳・片付けなどできることは一緒に行っています。面会がお昼に重なれば家族と一緒に食事することもでき、外食・行事食・公園でのおやつと楽しみが持てる支援がなされています。	糖尿病の利用者のため栄養指導を受けておられるとのことですが、できれば大まかにカロリー計算して、全員に栄養バランスのとれた食事が提供できればなお良いと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好物を取り入れたり、一人ひとりの状態に合わせた食事・水分が提供できるように努めている。また、主治医より塩分や糖分の指示のある方はバランスを考えた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりに口腔ケアの声かけを行ない口腔内の清潔を保っている。うがいの出来ない方はガーゼなどで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁回数が減るように職員が声掛けをしたり、尿瓶を活用して自己の排泄ができるよう支援している。また利用者の行動や表情を察知し、さりげない声かけを行なっている。	パターンを把握し、さりげない声掛けを行い、筆談で対話したり、男性には尿瓶を活用したり、できるだけトイレで排泄できるように、自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や散歩を行うと共に、水分補給の把握やできる限り排泄の確認を行なっている。また、主治医に相談し一人ひとりに応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前には本人に説明し、一人ひとりの希望に出来る限り対応できるよう、無理に行わないよう心がけている。長く入浴を拒否される方は、家族に協力を求めることもある。	希望により毎日でも入浴が可能になっています。浴室が少し狭く、リフトなどの設置も思うようにならず、重度者に対しては頑張って2人対応しているとのことです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の活動量を増やしたり、体調に合わせて昼間でも休めるよう促している。就寝時には照明や物音に気を配り、必要ならば添い寝している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回手渡しにして内服していたとき飲み込みまで確認している。変更があった場合は、状態観察に努め、薬剤師や主治医との連携も行っている。また薬の勉強会を開き、一人ひとりの内服状況を把握する機会を設け理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や干し柿・年末の大掃除など利用者一人ひとりが能力にあった作業や日常生活の中で得意なことを活かせるような場面づくりを行っている。また、季節の行事や外出など積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やお茶など一人ひとりの希望にできるだけそえるよう支援している。車椅子の利用者が不自由しないか、事前に下調べをし、安全等の確認をし、家族の協力を得ながら外出できるよう支援している。	地域行事への参加、近所の散歩や買物などのほか、外食、ドライブ、さくら・紅葉・雛めぐり・こいのぼり・蛍見物など、事前に下調べをして安全を確認(車椅子利用時など)し、家族の協力も得ながら希望にそってよく外出しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、本人や家族とも相談しながら、本人の不安がないよう支援している。買物等外出時には、本人が希望するものを買えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族と相談し、本人が自ら電話をしたいときなど職員は随時介助しながら連絡がとれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に安全に気を配り、自由に出入りしたり、使用したりできるよう支援している。必要に応じて、利用者と相談しながら、部屋の配置換えを行っている。	広い中庭は花と緑にあふれ、野菜畑での収穫を楽しみにしています。ウッドデッキにはテーブルと椅子が置かれ、リビングにはピアノやソファがあり、天窓やガラス戸越しに光が差し込み、季節の飾り付けや写真・作品が貼られ、明るく居心地よい空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をするテーブルだけでなく、ソファを活用したり、座席の配置を工夫したり、中庭でゆったり談笑できるような空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使用していた家具や家族写真・置き物などを本人と一緒に考えながら配置し、本人が生活しやすい安心感のある空間づくりを支援している。	テレビ・冷蔵庫・家具など使い慣れたものや好みのもを持ち込み、写真や置物など思い思いに配置して、居心地よく過ごせるような工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手すりを増やしたりするなど、一人ひとりのニーズに合わせて安全な環境づくりができるよう心がけている。		